

母谷新田レンゲ祭り実施報告書

母谷里山保全会

会長 大智 克喜

事業名称	母谷新田レンゲ祭り	参加 (人)	約70人 (受付49人、役員とボランティアなど)
開催日時	平成29年5月14日 (日) 午前10時～正午		
概要	<p>自然豊かな母谷の田んぼにレンゲを植え(緑肥による有機農法)、それに集まるミツバチや蝶などの生き物の生態系を学習することを計画しました。</p> <p>ミツバチ(環境指標動物と言われている)が生育できる場所は農薬汚染がなく、花や緑が多い所と言われており、花の蜜や花粉を集める過程で植物の受粉に貢献し、周辺生態系にとって好影響を及ぼすと言われているそうです。</p> <p>そこで、専門家の指導を仰ぎ、子どもたちに母谷の自然に親しんでもらうよう、ニホンミツバチの巣箱を設置し採蜜体験などを計画しました。(採蜜体験は今回のレンゲ祭りには間に合いませんでした。)</p> <p>レンゲ祭り当日は、前半に田んぼ周辺に集まる昆虫などの生き物調査をして、後半は、ホットケーキミックス粉を使って竹パンや竹筒を使って炊き込みご飯を作りました。</p>		
日程	<p>09:30 受付</p> <p>09:55 会長あいさつ、注意事項と作業内容の説明</p> <p>10:00 高学年と低学年に分かれて生き物探し</p> <p>10:45 採取した生き物の名前調べと展示、説明</p> <p>11:00 竹パン、竹ごはんの調理</p> <p>12:00 竹パン、竹ごはんの試食</p> <p>13:00 片付け後、解散</p>		
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月2日 役員会でレンゲ祭り実施の承認</li> <li>・11月22日 レンゲ種の散布(約1ヘクタールの田に30kg)</li> <li>・3月15日 岡山理科大学の高崎浩幸先生、黒田出さんと打ち合わせ(計画)</li> <li>・実施時期 平成29年5月初旬</li> <li>・参加対象者 母谷住民及び宇垣北部(河内、山条、宇垣原)の小中学生</li> <li>・参加人数 50人～100人程度</li> <li>・実施内容 レンゲや田んぼの周辺の花に集まる生き物や野花の調査。 当日が雨の場合は公会堂でスライドを使って子どもたちにお話会とする。 春には採蜜はできないが、うまく巣箱に入れば秋に採蜜は可能(3箇所)に巣箱を設置 レンゲやタンポポの花を使って昔遊びを教えよう。 子どもたちにホットケーキミックス粉を使って竹パンを作らせる。 役員、ボランティアで竹筒や飯盒を使って炊き込みご飯の実演を行う。</li> <li>・指導者 高崎浩幸先生(動物社会生態学)、中村圭司先生(昆虫生理生態学) 比嘉大樹先生(高校理科の先生)、高岡実冬さん(理科大の学生)</li> </ul>		
実施	<p>役員は当日午前8時半過ぎには集まり、前日に続き会場準備を行いました。当日は天候も良く、田んぼもぬかるんでなく幸いでした。</p> <p>ただ、レンゲ種を蒔いた時期や田んぼの水抜きがうまくできてなく、4月に入ってもレンゲが成長してなく、当初5月7日に予定していた日程を14日にずらして実施しました。そして当日にレンゲが咲いていないことを考慮して事前の案内は母谷の子供会だけとしました。</p> <p>そのため最初は参加者がまばらで人が集まるだろうかと心配していましたが、開会前には地域をはじめ多くの子どもたちが集まり、役員もホッとしました。</p> <p>9時55分に大智克喜会長のあいさつ、その後、注意事項と作業内容の説明があり、低学年と高学年に分かれ、低学年は中村圭司先生と田んぼの中で生き物探し、高学年は高崎浩幸先生と田んぼ周辺と新田池周辺の生き物探しをしました。子どもたちの人気は蝶やトンボかと思っていましたが、たくさんのカエルを捕まえ自慢しているのを見て大したものだと感心しました。10時40分頃から捕まえた生き物をテント前に持ってきて先生に名前を覚えてもらったり、友達に自慢したりして楽しんでいました。</p> <p>11時過ぎから竹パン作りに挑戦しました。これはクリーム絞り袋にホットケーキミックス粉と卵、牛乳を役員さんに入れてもらい、子どもたちが自分で袋の上からうまく混ぜるように捏ねて丸竹に巻き付けていき、それを炭火で焼いて食べるものです。捏ねる作業、焼く作業があり子どもたちに大変好評でした。また、役員・有志が竹筒にお米、タケノコを入れ竹ごはんを作りおいしくできあがりこれも好評でした。それと、近所の方が急遽、山菜の天ぷらを作ってください、これまたおいしく、若いお母さん方が山菜の名前を聞いたり、作り方を聞いたりして和やかに話が盛り上がっていました。</p> <p>役員、参加していただいた地区の皆さんにはそれぞれの役を率先して受けていただき、楽しい有意義な会ができましたことを感謝します。</p>		

採集結果

高崎浩幸先生、中村圭司先生からの調査結果の報告です。  
 幼虫の餌となる植物のことも想像できたりするチョウ類だけに限っても、飛翔を確認したものを含めて次のような種がありました。  
 モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ【シロチョウ科】  
 アオスジアゲハ、オナガアゲハ、カラスアゲハ、アゲハチョウ【アゲハチョウ科】  
 (オナガアゲハ、カラスアゲハがいることからコクサギ【ミカン科】が谷沿いのどこかに生えていることが推測されます)  
 ゴマダラチョウ (エノキが生えているはず)、ルリタテハ、ツマグロヒョウモン【タテハチョウ科】  
 クロヒカゲ、ヒメウラナミジャノメ【ジャノメチョウ科】  
 シオカラトンボ、ギンヤンマ【トンボ目】  
 キリギリス (幼虫)、トノサマバッタ (幼虫)、ツチイナゴ、ケラ【バッタ目】  
 オオゾウムシ (山の方で採集?)、ナナホシテントウ、ニジュウヤホシテントウ【コウチュウ目】  
 コオイムシ【カメムシ目】 ヤマトシリアゲ【シリアゲムシ目】  
 総評として、  
 子どもたちが採集したものは、ほとんどが普通種ではありましたが、それらが今の母谷に生息していることを確かめたことが大事でしょう。

なお、岡山など中国地方を中心に分布しているドングリのナラガシワ【ブナ科】が生えています。それを幼虫の主な餌としている蝶が、少なくとも3種 (ヒロオビミドリシジミ、ウラジロミドリシジミ、ウスイロオナガシジミ) います。それらや近縁種 (ウラミスジシジミ、オオミドリシジミ、ミズイロオナガシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミ) も母谷の多様性豊かな里山景観から見て生息している可能性が高いです。  
 日本国内でもそれら3種がそろう土地は中国地方にしかなく、しかも里山が減っていて確実に見られるところは大変少なくなっています。

多くの子どもたちに人気のあったカエルには、ツチガエル、トノサマガエル、ウシガエルを確認できました。しっかりと調査すれば、シュレーゲルアオガエル、アマガエル、アカガエルくらいは追加できるでしょう。

\*来年度以降も調査を続けて行くことが、母谷の自然環境の豊かさを感じ取る手近な方法だと思いますので、今後も皆さんのご参加・ご協力をお願いします。

当日の様子

・当日のレンゲの花



・テントの設営



・受付



・集合



・虫取前の説明



・虫取り出発





・親子で虫探し



・虫が取れたかな



・虫をゲット



・虫をもって集合



・レンゲ畑の蜂



・レンゲ畑のトンボ



・畔にいた蝶



・レンゲ畑のテントウムシ



・蜂



・バッタの幼虫



・理大先生の虫の解説



・理大の昆虫標本





・ 竹ご飯を炊く



・ 飯盒でご飯を炊く



・ 竹パンの作り方



竹パンの材料



・ 竹パンを焼く



・ 竹パン焼くの熱い



・ 竹パン美味しい



・ 理科大の先生有難うございました。

